



社会福祉法人作陽保育園
令和6年10月25日発行

「恩師」

涼しさを感じる虫の声や爽やかな風に、いよいよ秋の訪れを感じるようになりました。もうすぐ運動会、子どもたちは大きな体験活動を目前にし、本番を楽しみにしながら、毎日元気いっぱい頑張っています。

一年の中でもいちばん過ごしやすいこの季節、散歩や戸外遊びを通して秋の自然に親しみ、いろいろな体験をさらに広げて、のびのびと過ごしていきたいと思います。

夏の疲れも出てくる頃なので、早寝早起きをして、秋の美味しい食べ物をしっかりと食べて元気に過ごせるようにしていきますよね。

日本太鼓披露

白組さんが、4月から取り組んできた日本太鼓を披露します。かっこいい衣装を着て、迫力のある演奏をしますので、是非見に来て下さい。

日時： 令和6年10月9日（水）
14時30分～

場所： 作陽保育園遊戯室



作陽ミニフェスティバル

作陽ミニフェスティバルを、下記の日程で開催します。白組さんと緑組さんが、4月から取り組んできた鼓笛を、衣装を着て披露します。保護者の皆様、子どもたちの堂々とした演奏、演技を是非見に来てください。

鼓笛終了後、親子で楽しいレクリエーションを予定していますので、保護者の方は動きやすい服装でご参加ください。

日時： 令和6年10月26日（土）

場所： 鏡野町文化スポーツセンター体育館
（開場）10時45分
（開演）11時



赤い羽根共同募金について

10月1日（火）から赤い羽根共同募金が、全国一斉に展開されます。皆様の協力をよろしくお願いします。



衣替えについて

10月1日（火）から衣替えです。白・緑・黄組は、制服に名札をつけて登園しましょう。桃・赤組はスモックを着て登園しましょう。衣替えの時期ではありますが、まだまだ暑い日が続きます。園内では、体操服、スモックを着用して元気に遊びましょう。天候によっては、衣服の調節をお願いします。

- 衣服には全て、必ず記名をお願いします。
- ロッカーの中の着替えを確認し、その都度、補充や入れ替えをしてください。



おたんじょうびおめでとう♡

児童文学者の灰谷健次郎さんは、終戦後、お父さんとお兄さんを神戸の家に残し、お母さんと五人の子どもとで、倉敷の水島に食糧疎開をしていました。そんな折り、お兄さんとお父さんが事故で大けがをしたため、お母さんは、子どもたちにわずかな食糧を残し、急遽神戸に行きました。その食糧も底をつき、食べるものがなくなり、五人の子どもたちは、ころがったマグロのように、目を光らせ、口をパクパクして荒い息をするばかりでした。このままでは死んでしまう、と兄が畑ドロボウをしようといいました。

夜明けに学校裏の畑にトウモロコシを盗みにいったのです。トウモロコシを折る音で心臓がドキドキしました。宿直の先生が気づき、誰だ！といわれ、その声に足がすくみ動けません。姿を現したのは、なんと、担任の宗田先生でした。目の前が真っ暗になりました。先生は叱りませんでした。「どうしたんだ。わけをいいなさい」。灰谷さんは泣きながら事情を話しました。「そうか。つらかったな」と先生はいい、そして先生の家につれていかれました。大きな旧家でした。当時、貴重だった白いごはんをおなかいっぱい食べさせてくれ、家で待っている弟や妹のため、お米とハチミツを持たせてくれました。

それから四十数年たち、岡山で講演会に演者として招かれました。控え室で待っているとき、お客さんですといわれ、出てみると、背の高い老人が、灰谷さんの顔を見るなり「わしだ。宗田だ。わかるか」と大きな声を上げられました。灰谷さんは絶句して何も言えず、ただ先生の手をしっかり握りかえすばかりでした。

先生とのつながりは、たった三か月ほどです。大勢の子どもを教えられた先生にとって、一瞬の夢のような存在の灰谷さんを、先生はしっかり記憶され、灰谷さんの仕事を見守ってくれていたのです。先生は、なにかで灰谷さんを見つけ、「あれは、わしの教え子だ」と慈愛を注いでくれたのです。

